

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2011年 1月 21日

## 1. 概要

実践団体名	千葉県立千葉西高等学校		
連絡先	043(277)0115		
プランタイトル	埋立から40年～みんなで取り組む「磯辺」の防災～		
プランの対象者	高校生,教職員・保育士等,保護者・PTA,地域住民,社会人・一般	対象とする災害種別	地震

### 【プランの目的・ここがポイント！】

「命を守ろう」をキーワードにして、「地域との連携を深める防災教育」のあり方を検討する。

- ① 学校が中心となり、地域との連携を図りながら、この地域の災害特性について学ぶことを通して、地域を知る活動を進め、ネットワークを活かした防災体制の整備を目指す。（地域を知る）
- ② 防災に関する正しい知識や高い意識を身につけ、自助・共助の意識のもとに的確に行動できる人材を育成する。（防災について学ぶ）

### 【プランの概要】

- ① 地域の災害特性の研究・広報  
本校のある磯辺地域では、地震発生時に液状化現象が起こる可能性が高い。液状化が起きるメカニズムを学び、実際に本校のグラウンドのボーリング調査を行う。また、液状化するメカニズムを視覚化し、わかりやすく説明できるように実験装置を作成し学校や地域で実験を披露する。
- ② 防災に関する意識啓発  
事業の最初に意識調査を行い、防災に関する意識づけを行う。防災通信等を毎月発行して広報しながら、地域と連携した防災関連行事を実践する。また、地域や外部での防災関連イベントに参加し体験を積むとともに防災に関する知識を深め、意識を高めていけるよう啓発活動を継続する。最後に再度意識調査を行い、防災に対する意識の変化を確認する。
- ③ 防災担当者連絡会議の実施  
関係機関、地域住民、学校の代表者で、防災関連行事や防災に関する課題を協議しながら、ネットワークづくりを行い、防災教育のあり方を検討する。

### 【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ① 埋立地上に造成されて40年経過し、少子高齢化している街において、学校が積極的に地域への情報発信を行い、学校を核として防災を学ぶ機会を提供し、地域と連携した取組を行うことで、災害に強い街づくりに役立てる。
- ② 意識調査で意識づけを行い、さまざまな防災に関する意識啓発事業を通して知識を身につけ意識を高め、自助・共助の心を育てることで、「命」や「人と人のつながり」の大切さを理解し、命を守ることのできる人間育成を図る。

# 防 災 教 育 千 葉 県 立 千 葉 西 高 等 学 校 最 終 報 告 書

## 2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	・第1回防災担当者 連絡会議	・自治会への事業説明 ・防災係選出	・危機管理対応マニュアル配付 ・避難経路、災害時心得掲示
5月		・意識調査内容検討 ・消防署との打合せ ・環境研究センター相 談	・LHR（防災教育） ・第1回意識調査 ・第1号防災通信発行
6月			・第2号防災通信発行
7月	・第2回防災担当者 連絡会議	・液状化実験装置作成 ・防災係勉強会 ・非常食調査 ・展示パネル作成	・避難訓練、防災講演会 ・救急講習会（AED） ・グラウンドボーリング調査 ・非常食試食 ・第3号防災通信発行
8月	・第3回防災担当者 連絡会議	・防災教育資料作成 （公開LHR用）	・防災学習会（2日） ・第4号防災通信発行
9月	・第4回防災担当者 連絡会議	・防災係勉強会 ・展示資料調査	・九都県市防災訓練 （体験・液状化実験） ・防災講話 ・白帆祭防災パネル展示、起震車体験 ・公開LHR（防災教育） ・第5号防災通信発行
10月			・地域防災活動の展示 ・美浜区民フェスティバル（液状化実験） ・第6号防災通信発行
11月		・意識調査内容検討	・防災体験談 ・地域・学校防災教育セミナー参加 ・第7号防災通信発行
12月			・第2回意識調査 ・1000か所ミニ集会 ・第8号防災通信発行
1月	・第5回防災担当者 連絡会議		・第9号防災通信発行
2月			・第10号防災通信発行

# 防 災 教 育 千 葉 西 高 校 最 終 報 告 書

## 3. 実践したプランの内容と成果

### 【実践プログラム①】

タイトル	防災講演会
実施月日（曜日）	平成22年7月14日（水）
実施場所	本校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：栗田暢之 所属・役職等：NPO法人レスキューストックヤード代表理事
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間30分
プログラムのカテゴリ、形式	3 講演会・シンポジウム
活動目的	6 防災に関する知識を深める・8 防災意識を高める・ 9 災害対応能力の育成
達成目標	①災害を自分のこととしてとらえ、災害時の状況をイメージする。 ②災害時に高校生として何ができるかを考え、地域における高校生の役割を考える機会とする。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	「高校生に期待すること～地域の防災力を高めよう～」をテーマにした講演
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・パソコン、プロジェクター、スクリーン
参加人数	1030名
経費の総額・内訳概要	0
成果と課題	【成果】阪神・淡路大震災をはじめ、多くの災害現場を体験している講師の体験に基づき、映像を交えた講話には説得力があった。生徒はかなり真剣に命の大切さ、災害に対する備え、高校生としてできることなどについて考えたようである。 【課題】高校生と地域の連携のあり方について、防災担当者連絡会議等を活用して検討していくことが必要である。
成果物	なし

# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

## 【実践プログラム②】

タイトル	防災避難訓練
実施月日（曜日）	平成22年7月15日（木）
実施場所	本校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：美浜消防署員 所属・役職等：美浜消防署
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式	16 避難・防災訓練
活動目的	4 災害を想定した訓練・8 防災意識を高める・ 9 災害対応能力の育成
達成目標	①災害時に命を守り的確に対応できる能力を養う。 ②防災に関する技術を身につける。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災避難訓練の目的、内容の伝達</li> <li>・火災発生を想定した避難訓練</li> <li>・訓練の講評</li> <li>・その他の訓練 <ul style="list-style-type: none"> <li>1年 救助袋による降下訓練</li> <li>2年 水消火器による消火訓練</li> <li>3年 搬送訓練</li> </ul> </li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドマイク</li> <li>・救助袋、水消火器、毛布・竹</li> </ul>
参加人数	1040名
経費の総額・内訳概要	0
成果と課題	<p>【成果】避難訓練のみでなく、降下・消火・搬送など新たな訓練を計画したことで、新鮮な訓練となった。地域住民も参加し、ともに訓練できたことは連携の一步と言える。</p> <p>【課題】平日開催のため、地域住民の参加に偏りがある。住民参加した避難訓練の方法について検討が必要である。</p>
成果物	なし

# 防 災 教 育 ち ゃ れ ん じ ゃ る ん 最 終 報 告 書

## 【実践プログラム③】

タイトル	救急講習会
実施月日（曜日）	平成22年7月20日(火)
実施場所	本校トレーニングルーム
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：美浜消防署員 所属・役職等：美浜消防署
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間30分
プログラムのカテゴリ、形式	13 体験学習
活動目的	4 災害を想定した訓練・7 技術を身につける・ 9 災害対応能力の育成
達成目標	心肺蘇生の方法やAED機器の取り扱い方法を習得し、不測の事態に適切な対応ができるようにする。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心肺蘇生法</li> <li>・AED講習会</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レサシオン</li> <li>・AED</li> </ul>
参加人数	31名
経費の総額・内訳概要	0
成果と課題	<p>【成果】本校にAEDが設置されている認識を新たにするとともに、毎年継続して行うことで心肺蘇生法やAEDの使用方法が定着しつつある。</p> <p>【課題】講習のために十分な時間の確保が難しい。</p>
成果物	なし

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 【実践プログラム④】

タイトル	ボーリング調査及び非常食試食
実施月日（曜日）	平成22年7月22日(木)
実施場所	本校グラウンド
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：風岡 修 所属・役職等：千葉県環境研究センター 主席研究員
所要時間または「コマ数×単位時間」	8時間
プログラムのカテゴリ、形式	7 学校内クラブ活動
活動目的	5 災害を疑似体験・6 防災に関する知識を深める・ 8 防災意識を高める
達成目標	①地震発生時に液状化する可能性を探り、ボーリング調査を実施しグラウンドの実態を把握する。 ②災害時に備え、非常食の作り方を学ぶ。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	①ボーリング調査 ・スコップ及び機械による穴掘り（3メートル） ・コア（標本）の採取及び観察 ・実態調査の結果公表（区役所における展示） ②非常食試食 ・ハイゼックス袋及び簡易炊飯袋を使用した非常食体験
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・スコップ、軍手、ボーリング用機械、標本箱 ・ハイゼックス袋、簡易炊飯袋、米、コンロ、なべ
参加人数	20名
経費の総額・内訳概要	炊飯袋（3,780円）
成果と課題	【成果】グラウンドは、貝化石を含んだ砂やシルトが堆積しており地下水位はグラウンド下1.8メートルであったことから、地震発生時には液状化する可能性が高いことがわかった。また、非常食は割と手軽につくることができ、おいしいことが体験できた。 【課題】本格的なボーリング調査だったため、高校生のみでは実施できなかった。また標本の分析等も専門的なアドバイスが必要であった。非常食は火力が弱いと難しい。
成果物	本校グラウンドコア（標本）

# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

## 【実践プログラム⑤】

タイトル	液状化実験装置作成と液状化実験
実施月日（曜日）	平成22年7月26日(月)～8月2日(月) 8月4日(水), 9月1日(水), 5日(日), 10日(金), 11日(土), 10月3日(日)
実施場所	本校, 九都県市合同防災訓練君津市会場, 稲毛海浜公園
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：佐藤洋樹 所属・役職等：本校教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	作成：一週間程度 実験：8月4日30分, 9月1日2時間, 9月5日3時間, 9月10日, 11日4時間程度, 10月3日5時間程度
プログラムのカテゴリ、形式	1 イベント・行事・7 学校内クラブ活動
活動目的	5 災害を疑似体験・6 防災に関する知識を深める・ 8 防災意識を高める
達成目標	①液状化のメカニズムをわかりやすく説明するための実験装置を作成する。 ②磯辺地域の災害特性である液状化現象を多くの人に周知する。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	・液状化実験装置作成について、千葉県環境研究センター職員のアドバイスを受ける。 ・液状化実験装置を作成する。 ・各地にて液状化実験を実施する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・ガラス水槽, 塩化ビニルパイプ, 塩化ビニル継ぎ手, ビニールチューブ, 塩化ビニルバルブ, 不織布, 金網, 砂, 砂利, ABSパイプ, 釣り用浮き, シリコン充填剤, ボルト, ナット, 平ワッシャー, 合板, キャスター, スリムスレット, 割り箸, コンクリートタイル, フィルムケース, ビニールテープ, 木工用ボンド, ガラス管, 角椅子, プラスティック水槽
参加人数	多数
経費の総額・内訳概要	実験装置材料(10,964円)
成果と課題	【成果】実験の度に装置を工夫改良しながら実験の精度を上げていくことができた。コミュニケーションを図りながら実験を行うことができるようになった。 【課題】説明する相手によって説明方法に工夫が必要である。
成果物	液状化実験装置

# 防 災 教 育 ち ゃ れ ん じ フ ラ ン 最 終 報 告 書

## 【実践プログラム⑥】

タイトル	防災学習会
実施月日（曜日）	平成22年8月4日(水), 5日(木)
実施場所	本校会議室ほか
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：風岡修・細川顕司・浅尾一巳・佐々木貴子 所属・役職等：千葉県環境研究センター主席研究員・市民防災研究所事務局長兼調査研究部長・県総務部消防地震防災課副主幹・北海道教育大学准教授
所要時間または「コマ数×単位時間」	「4コマ×2時間」
プログラムのカテゴリ、形式	2 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的	3 災害に強い地域をつくる・5 災害を疑似体験・ 6 防災に関する知識を深める・8 防災意識を高める
達成目標	「地域を知る」「防災について学ぶ」の二つの目標に沿って、学校が中心となって学びの場所を提供し、防災についての知識を深める。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「地域の災害特性を学ぶ～過去の被害状況や最近の地震被害調査をもとに～」</li> <li>・液状化実験, 非常食試食</li> <li>・講義と演習「地域で実践できる防災活動」</li> <li>・講義「行政の防災対策と地域と連携した防災対策」</li> <li>・グループワーク「DIG（災害図上演習）」</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン, プロジェクター, スクリーン</li> <li>・ハイゼックス袋, 米, こんろ, なべ。 ・液状化実験装置</li> <li>・サインペン, ヒモ, ビニールシート, 地図</li> </ul>
参加人数	40名
経費の総額・内訳概要	謝金（20,000円×2人）
成果と課題	<p>【成果】地域連携がキーワードになり、地域の特性や地域に根ざした防災活動のあり方等、密度の濃い4講座が展開された。実際に高校の校舎内を見学できたのは好評であった。</p> <p>【課題】参加者確保のために、学習会実施の広報に工夫が必要であった。</p>
成果物	なし



# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

## 【実践プログラム⑦】

タイトル	九都県市合同防災訓練
実施月日（曜日）	平成22年9月1日(水), 5日(木)
実施場所	君津市西君津地先・千葉市美浜区 真砂第5小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名： 所属・役職等：県総務部消防地震防災課・千葉市市民局市民部総合 防災課
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2時間（君津市） 3時間（千葉市）
プログラムの カテゴリ、形式	1 イベント・行事・12 研究・13 体験学習・ 16 避難・防災訓練
活動目的	1 遊び・楽しみながらの防災・4 災害を想定した訓練・ 6 防災に関する知識を深める・7 技術を身につける・ 8 防災意識を高める・9 災害対応能力の育成
達成目標	①大規模な訓練を体験することで防災に関する知識を深め、自助・ 共助の意識を高める。 ②液状化について理解を深めてもらうとともに本校の防災に関する 取組を広報する。
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	①君津市会場 ・生徒、地域住民は本校から大型バスで訓練参加 ・非常食づくり、バケツリレー、搬送訓練、心肺蘇生法 体験学習 ・大規模訓練の見学 ・液状化実験 ②千葉市会場 ・液状化実験 ・本校の防災取組パネル展示
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・液状化実験装置 ・防災取組展示用パネル
参加人数	38名(本校関係者) 全体的には8,00人規模の訓練
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】楽しみながら防災体験することで、防災意識が高まった。 液状化実験は、回を重ねるごとにスムーズに行えるようになり、コ ミュニケーションを図りながら普及啓発できるようになった。 【課題】盛夏のため熱中症対策が必要であった。
成果物	なし

# 防 災 教 育 ち ゃ れ ん じ ゅ ら ん 最 終 報 告 書

## 【実践プログラム⑧】

タイトル	白帆祭における防災体験
実施月日（曜日）	平成22年9月10日(金), 11日(土)
実施場所	本校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者・講師 氏 名： 所属・役職等：県総務部消防地震防災課職員・美浜消防署員
所要時間または「コマ数×単位時間」	4時間30分 1時間30分
プログラムのカテゴリ、形式	1 イベント・行事・7 学校内クラブ活動・13 体験学習
活動目的	5 災害を疑似体験・6 防災に関する知識を深める・ 7 技術を身につける・8 防災意識を高める・ 9 災害対応能力の育成
達成目標	広く防災について周知するとともに、体験を通して防災の知識や技術を身につける。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	①9月10日 地震体験(起震車) ②9月11日 心肺蘇生法, AED講習会 ③両日 ・液状化実験 ・防災取組パネル展示 ・災害写真展示・防災啓発資料配付
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・起震車 ・レサシオン, AED ・液状化実験装置 ・校内防災取組展示パネル
参加人数	起震車 約150名 救急講習 15名 ほか
経費の総額・内訳概要	0
成果と課題	【成果】起震車による地震体験は、災害疑似体験としてかなりインパクトがあった。大きな揺れでは頭を守ることが精一杯であることを体験することで防災意識が高まった。一般の方を対象に救急講習を実施し学校が地域への学びの場となった。 【課題】救急講習には一定の時間が必要なため、一般の方が飛び入りで参加することは難しい。
成果物	なし

# 防 災 教 育 千 葉 県 立 千 葉 西 高 等 学 校 最 終 報 告 書

## 【実践プログラム⑨】

タイトル	防災教育公開LHR
実施月日（曜日）	平成22年9月29日(水)
実施場所	各HR（24学級）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：各クラス防災係 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	50分
プログラムのカテゴリ、形式	6 学級活動
活動目的	1 遊び・楽しみながらの防災・6 防災に関する知識を深める・ 8 防災意識を高める
達成目標	防災に関する意識を高め、災害発生時に自助・共助を意識して行動できるように、必要な知識や技能を習得する。
実践方法・進め方（簡条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月2日、21日に各クラス防災係対象に防災勉強会を実施する。</li> <li>・県内学校に公開授業の周知を行い、授業参観者を募る。</li> <li>・6つの課題テーマより一つを選択する。</li> <li>・生徒用シートを配付し、課題について各自考える。</li> <li>・班を作成し意見交換する。</li> <li>・班ごとに発表しクラス全体としての意見をまとめる。</li> <li>・模造紙にまとめて提出。</li> <li>・他校教職員、防災担当者連絡会議メンバー等約20名参観</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・模造紙、マジック、マグネット
参加人数	1000名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	<p>【成果】各クラスとも防災係を中心に真剣に話し合いが行われた。防災について楽しみながら活発な意見が交わされた。</p> <p>【課題】防災教育を実施する時間の確保が難しいが、継続的な防災教育が望まれる。</p>
成果物	なし

# 防災教育チャレンジラン 最終報告書

## 【実践プログラム⑩】

タイトル	防災体験談
実施月日（曜日）	平成22年11月24日(水)
実施場所	本校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：岩本しず子 所属・役職等：NPO法人「神戸の絆2005」副代表理事
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間
プログラムのカテゴリ、形式	3 講演会・シンポジウム
活動目的	6 防災に関する知識を深める・8 防災意識を高める
達成目標	災害は他人事ではなく自分自身の問題として考えることができるように、阪神・淡路大震災の体験に基づく貴重な講演を参考に、「命を大切にする」意識を高める。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	「そこから出発」～学校からみた阪神・淡路大震災～をテーマにした体験談
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	
参加人数	1050名
経費の総額・内訳概要	謝金（40,000円）
成果と課題	【成果】災害に対して訓練や備えは必要であるが、防災教育は命の教育であり、命を大切にする、人と人のつながりを大切にするのが重要であるという講話を受け止めた人が多かった。 【課題】時間を確保することが難しいなかで、いろいろな防災関連事業を効果的に行う方法を考えていかなければならない。
成果物	

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 【実践プログラム⑪】

タイトル	防災通信発行
実施月日（曜日）	毎月
実施場所	
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：石塚由乙 所属・役職等：本校教頭
所要時間または「コマ数×単位時間」	
プログラムのカテゴリ、形式	17 その他
活動目的	6 防災に関する知識を深める・8 防災意識を高める
達成目標	本校で実施している「地域との連携を深める防災教育公開事業」の周知・広報，防災に関する情報提供を行い，防災に関する知識を深め，防災意識を高めることができるようにする。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災通信を作成</li> <li>・ 生徒，職員，磯辺28自治会に配付</li> </ul>
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	
参加人数	
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	<p>【成果】 防災通信を継続的に作成，回覧することで，防災について情報を発信することができるとともに，本校の理解度が深まり，開かれた学校づくりの一助となった。</p> <p>【課題】 回覧だけでなく，他の広報の方法を平行して活用することがより効果的である。</p>
成果物	防災通信

# 防 災 教 育 千 葉 県 立 千 葉 西 高 等 学 校 最 終 報 告 書

## 【実践プログラム⑫】

タイトル	意識調査
実施月日（曜日）	5月と12月
実施場所	
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：石塚由乙 所属・役職等：本校教頭
所要時間または「コマ数×単位時間」	
プログラムのカテゴリ、形式	17 その他
活動目的	8 防災意識を高める
達成目標	一年間の防災関連事業を通して防災に関する知識が深まり，防災について意識が高まるなど，事業の開始時と終了時において意識が変化することを確認する。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	第1回目の調査項目検討 → 調査実施 → 回収 → 集計 → 調査結果報告 第2回目の調査項目検討 → 調査実施 → 回収 → 集計 → 調査結果報告
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	アンケート用紙
参加人数	
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】防災関連行事全般について役に立った（よかった）と回答し，それぞれの行事を通して理解できたこと，新たに行動に移したり心がけたこと，今後防災について継続的に関心を持つことなど，意識調査の結果，それなりの成果が上がったことが確認できた。 【課題】日々の生活の中で，楽しみながら防災について意識を高めたいけるように継続方法を考えていかなければならない。
成果物	

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 4. 苦労した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦労した点 工夫した点</b></p>	<p>防災については、日頃からの備えが重要であるという認識はありながら、超多忙化・煩雑化している進学校での学校運営の中で、時間的にも精神的にも新たなものを取り入れるゆとりがないのが現状である。学校教育目標の一つに地域連携を掲げている本校では、開かれた学校づくりを推進する中で、具体的に「防災」をテーマに地域連携を探ってきた。地域住民との合同避難訓練をきっかけに、元来、防災に関心は高いが少子高齢化している街で、学校と地域が協働・連携できる接点を検討し、計画を立案した。校内では教育課程や年間行事計画が確定している中で、新たに防災教育のチャレンジプランを設定することは難しかった。また、どのような事業を展開すれば防災意識の向上につながるのか、自助・共助の考え方や命を大切にすることなど、防災の技術や備えだけでなく、心の備え、防災に対する意識の持ち方が変化するような人間育成を目指した。</p>
<p><b>準備活動で 苦労した点 工夫した点</b></p>	<p>計画に基づき事業を実践するために、地域や関係機関等との打合せや相談が必要不可欠である。外部講師との調整も含め、校内だけでなく防災担当者連絡会議のメンバーの方々に多大な協力をいただいた。</p> <p>一方、生徒への働きかけとしては教職員からの指導に頼らず、生徒自らが積極的に防災教育を推進できるように、各クラス2名の防災係を選出し、日ごろの生徒への連絡、公開LHRの指導を行った。そのため、毎月、係だけの打ち合わせを設定し、防災教育を行う傍ら、外部で行われた九都県市合同防災訓練に参加するなど体験学習を積み重ねた。公開LHRでは資料等を使用して事前勉強会を2度実施し、円滑なLHRが実践できるよう工夫した。また、限られた時間の中で、自主的に意欲的に防災に取り組めるように、さらに、気軽に防災についての話題にふれたり新しい防災情報を収集できるようにリーフレットや防災通信の配付を行った。</p>
<p><b>実践に 当たって 苦労した点 工夫した点</b></p>	<p>地域と連携した防災教育公開事業を進めてきたが、事業の対象が本校生徒以外の場合、事業の周知や広報の難しさに直面した。特に、地域住民のための防災学習会は二日間の開催だったこともあり、内容の充実した学習会にもかかわらず、地域の自治会を中心とした広報だけではなかなか参加者が集まらなかった。最終的には行政と連携することで実施することができた。そのほか、本校の実践を防災担当者連絡会議等で検討する中で、より効果的な実践をするために新たなイベントへの参加等、計画立案以外の新たな活動が増加し、多忙な中にも充実した事業を展開することができた。</p> <p>毎月発行した防災通信については、本校の取り組み報告の他、防災関連事業のお知らせ、豆知識としての防災情報を掲載し、読みやすくわかりやすく工夫して作成した。</p>

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課 千葉県立千葉西高等学校開かれた学校づくり委員会	防災担当者連絡会議 学習会講師派遣 地域・学校防災教育セミナー開催
保護者・ PTAの組織	千葉県立千葉西高等学校保護者会	防災通信配付 講演会等参加
地域組織	磯辺28自治会	防災通信配付 講演会等参加 防災学習会参加
国・地方公共団体・ 公共施設	千葉県総務部消防地震防災課 千葉県環境研究センター 千葉市市民局市民部総合防災課 千葉市美浜区役所地域振興課 千葉市美浜消防署	講演会講師派遣 学習会講師派遣 ボーリング調査・液状化実験装置作成指導 防災担当者連絡会議 合同防災訓練 避難訓練 救急講習会指導 地震体験車
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		



# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 防災関連行事等を通じて学校、地域、関係機関とのネットワークが構築された。</li> <li>② 地域の実態を調査し、結果を地域にフィードバックすることができた。</li> <li>③ 学校が地域に対して学びの場所を提供した。</li> <li>④ 生徒は、地域行事に参加して防災に関する体験を積むことで、コミュニケーション能力を高め貴重な社会体験ができた。</li> <li>⑤ 命の大切さ、自助・共助の考え方、備えの重要性などの理解が深まり、防災に対する意識の変容がみられた。</li> <li>⑥ 防災関連行事、防災通信等を通じて、防災に関する知識を身につけ、実際に新たな心がけや行動を行うなど変化がみられた。</li> </ol> <p>いつどこで災害が発生するかわからないが、起きてからでは遅い。日ごろからの十分な備えが必要であること、お互いに助け合うことが必要不可欠であることは十分に理解したようである。</p>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 各クラスの防災係は、防災についての勉強会や防災体験等を積み重ね、公開LHRではクラスの中心となって授業を行った。教えることで防災に関する理解が深まったようである。</li> <li>② 全日制高校普通科において防災教育をどのように展開することが可能か、ゼロからのスタートであったが、さまざまな実践を行うことができた。また、防災担当者連絡会議で事業について検討しアドバイスをいただき、計画時よりもより発展的な内容となった。</li> <li>③ 地域の代表者会議で、回覧用防災通信を配付し本校の防災教育の取り組みを広報してきたが、より効果的な広報のあり方や地域連携の範囲など、検討課題が残る。</li> </ol> <p>振り返ると一年間で多くの防災に関するイベントを行ってきた。年間を通じて防災教育を計画立案してきたが、各々が単独の行事としてではなく、全体を通して防災教育の効果があったかどうか検証する必要がある。</p> <p>防災教育は特別に身構えて行う教育ではない。毎日の生活の中で、生きる知恵として、「知っておくと便利なこと」「準備しておくとお助かること」であることに気づいてほしい。かつては、子どもの頃から家庭で家族とともに災害に備えて準備していた。今回、保護者に対して、防災通信等を活用して防災情報を伝達し、講演会などの通知も届けたが、これをきっかけとして、家族で話し合う場を設定してくれることを願う。</p> <p>地域連携をテーマに実践してきた防災教育であったが、地域連携には、ネットワークとチームワーク、そしてお互いに情報交換しながら行動するフットワークの良さが欠かせない。多くの方々の協力で様々な事業を無事終了できたことを心より感謝したい。</p>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<p>12月に実施した第2回意識調査の結果、防災に対する関心が高まり、備えを行うなど新たな行動をとったり、心がけていることがあるなどと、防災意識の向上がみられた。</p> <p>今後、新しい防災情報や知識を継続的に発信することで、さらに効果が上がると期待される。</p> <p>また、防災を通じて構築された関係機関や地域住民とのネットワークを継続し、連携を深めていきたい。</p>

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 7. 自由記述欄 ①

<実践活動の様子>



7月14日 防災講演会



7月15日 防災訓練



7月20日 心肺蘇生法・AED講習会 7月22日 グラウンドボーリング調査・非常食試食



8月5日 防災学習会



9月1日 九都縣市合同防災訓練（君津市）



9月5日 九都縣市合同防災訓練（千葉市）



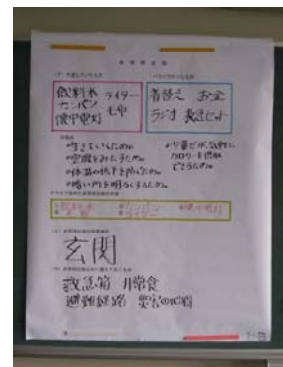
9月10日 白帆祭

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 7. 自由記述欄 ②



9月11日 白帆祭



9月29日 防災教育公開LHR



10月3日 美浜区民フェスティバル



10月7日～21日 地域防災活動の展示

防災担当者連絡会議

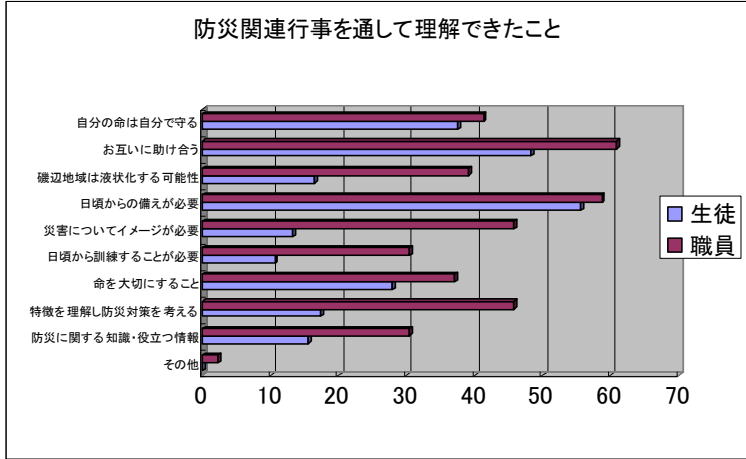
# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 7. 自由記述欄 ③

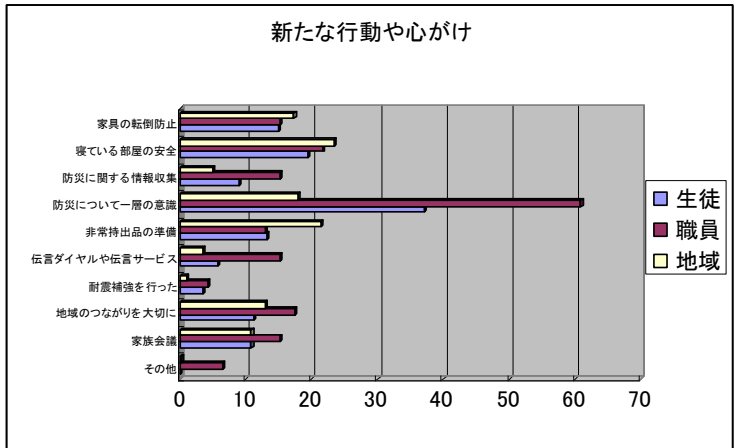
### 12月に実施した第2回意識調査の結果より

(複数回答可)

防災関連の行事を通してどんなことが理解できましたか？



防災関連の行事等を行い、新たに行動に移したり心がけたことはどんなことですか？



今後防災について知りたいことはどんなことですか？

